

## 点と直線の距離の公式の求め方

点と直線の距離の公式は、非常に便利でよく使う公式である。しかし、そのまま公式を求めようとすると、文字が多く煩雑で計算力を必要とする。以下に、公式の証明をいくつか紹介する。

問題 点A( $x_0, y_0$ )と直線 $l: ax+by+c=0$ との距離 $d$ を求めよ。

**解答**

点Aを通り、直線 $l$ に垂直な直線 $g$ は、 $b(x-x_0)-a(y-y_0)=0$

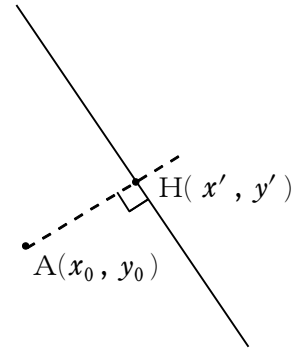
2直線の交点H( $x', y'$ )を計算すると、

$$x' = \frac{b^2x_0 - aby_0 - ac}{a^2 + b^2}, \quad y' = \frac{a^2y_0 - abx_0 - bc}{a^2 + b^2}$$

よって、2点間の距離 $d$ の2乗は、

$$\begin{aligned} d^2 &= (x' - x_0)^2 + (y' - y_0)^2 \\ &= \left\{ -\frac{a(ax_0 + by_0 + c)}{a^2 + b^2} \right\}^2 + \left\{ -\frac{b(ax_0 + by_0 + c)}{a^2 + b^2} \right\}^2 \\ &= \frac{(ax_0 + by_0 + c)^2}{a^2 + b^2} \end{aligned}$$

$$d = \frac{|ax_0 + by_0 + c|}{\sqrt{a^2 + b^2}}$$



(補足①) 直線 $g: b(x-x_0)-a(y-y_0)=0$ のように直線 $l: ax+by+c=0$ を変形すると

$$\text{直線 } l: a(x-x_0) + b(y-y_0) = -(ax_0 + by_0 + c)$$

この2直線の式を、 $x-x_0$ と $y-y_0$ の連立方程式とみると、

$$x - x_0 = -\frac{a(ax_0 + by_0 + c)}{a^2 + b^2}, \quad y - y_0 = -\frac{b(ax_0 + by_0 + c)}{a^2 + b^2}$$

となり、 $d^2 = (x' - x_0)^2 + (y' - y_0)^2$ を計算すると公式を導くことができる。

(補足②) 点Aが原点Oと重なるように全体を平行移動させると、直線 $l$ は、

$$\text{直線 } l': a(x+x_0) + b(y+y_0) + c = 0$$

となる。原点を通り、直線 $l'$ に垂直な直線 $g'$ は、

$$\text{直線 } g': bx - ay = 0$$

この2直線を連立させて、交点を求めると

$$x = -\frac{a(ax_0 + by_0 + c)}{a^2 + b^2}, \quad y = -\frac{b(ax_0 + by_0 + c)}{a^2 + b^2}$$

原点から、交点までの距離 $d$ の2乗は、

$$d^2 = x^2 + y^2$$

となり、計算すると公式を導くことができる。

別解1 点A( $x_0, y_0$ )から直線 $l: ax+by+c=0$ へ下した垂線の足をH( $x', y'$ )とする。

直線 $l$ の法線ベクトル $\vec{n}$ は、 $\vec{n}=(a, b)$ なので、

$$\overrightarrow{AH} = k\vec{n}$$

$$(x' - x_0, y' - y_0) = k(a, b)$$

よって、 $x' = ka + x_0$ 、 $y' = kb + y_0$

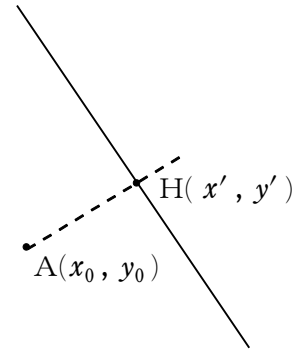
H( $x', y'$ )は、直線 $l$ 上の点なので、

$$a(ka + x_0) + b(kb + y_0) + c = 0$$

$$k = -\frac{ax_0 + by_0 + c}{a^2 + b^2}$$

点A( $x_0, y_0$ )から直線 $l: ax+by+c=0$ までの距離 $d$ は

$$\begin{aligned} d &= |\overrightarrow{AH}| = |k|\vec{n}| \\ &= \frac{|ax_0 + by_0 + c|}{a^2 + b^2} \cdot \sqrt{a^2 + b^2} \\ &= \frac{|ax_0 + by_0 + c|}{\sqrt{a^2 + b^2}} \end{aligned}$$



別解2  $a \neq 0, b \neq 0$ とする。直線 $l: ax+by+c=0$ と $x$ 軸と $y$ 軸との交点B, Cは、

$$B\left(-\frac{c}{a}, 0\right), C\left(0, -\frac{c}{b}\right)$$

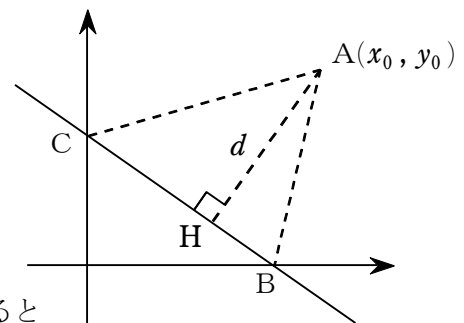
よって、 $\triangle ABC$ の面積 $S$ は、

$$\begin{aligned} S &= \frac{1}{2} \left| \left(\frac{c}{a} + x_0\right)\left(\frac{c}{b} + y_0\right) - x_0 y_0 \right| \\ &= \frac{1}{2} \left| \frac{c}{ab} \right| |ax_0 + by_0 + c| \end{aligned}$$

一方、 $\triangle ABC$ の面積 $S$ は、底辺をBC、高さ $AH=d$ とすると

$$\begin{aligned} S &= \frac{1}{2} \cdot BC \cdot AH \\ &= \frac{1}{2} \sqrt{\left(-\frac{c}{a}\right)^2 + \left(-\frac{c}{b}\right)^2} \cdot d \\ &= \frac{1}{2} \left| \frac{c}{ab} \right| \sqrt{a^2 + b^2} \cdot d \end{aligned}$$

面積は等しいので、 $d = \frac{|ax_0 + by_0 + c|}{\sqrt{a^2 + b^2}}$



別解3 点A( $x_0, y_0$ )を中心とし、半径 $r$ の円周上の点B( $x, y$ )は

$$x = r\cos\theta + x_0, \quad y = r\sin\theta + y_0$$

と表すことができる。点Bが直線 $l: ax + by + c = 0$ 上にあるとき、

$$a(r\cos\theta + x_0) + b(r\sin\theta + y_0) + c = 0$$

より、

$$r(b\sin\theta + a\cos\theta) = -(ax_0 + by_0 + c)$$

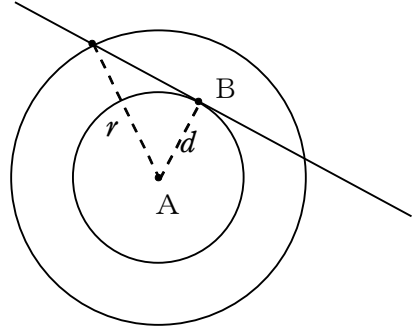
$$r\sqrt{a^2 + b^2} \sin(\theta + \alpha) = -(ax_0 + by_0 + c)$$

$$|r|\sqrt{a^2 + b^2} |\sin(\theta + \alpha)| = |ax_0 + by_0 + c|$$

$|r|$ が最小になるとき $d$ となるので、 $|\sin(\theta + \alpha)| = 1$

よって、

$$d = \frac{|ax_0 + by_0 + c|}{\sqrt{a^2 + b^2}}$$



別解4  $b \neq 0$  のとき、直線 $l: y = -\frac{a}{b}x - \frac{c}{b}$  この直線を $y = mx + n$  とする。

左図の場合を考える。直線 $l$ と $x$ 軸との交点をD、点Aを通り、 $y$ 軸に平行な直線が、直線 $l$ 、 $x$ 軸と交わる点をそれぞれB、Cとする。

$x$ 軸の正方向とのなす角を $\theta$ とすると、 $m = \tan\theta$

$$1 + \tan^2\theta = \frac{1}{\cos^2\theta} \text{ より、} |\cos\theta| = \frac{1}{\sqrt{1 + \tan^2\theta}}$$

また、 $\triangle BAH \sim \triangle BDC$ より、 $\angle BAH = \angle BDC$

よって、図1の場合、 $AH = AB \cos\theta$

図2の場合、 $AH = AB \cos(\pi - \theta)$

より、

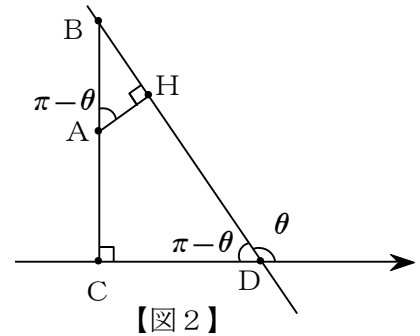
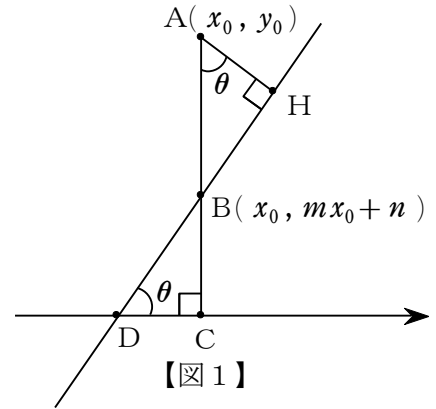
$$AH = |y_0 - mx_0 - n| |\cos\theta|$$

よって、

$$AH = \frac{|y_0 - mx_0 - n|}{\sqrt{1 + m^2}}$$

ここで、 $m = -\frac{a}{b}$ 、 $n = -\frac{c}{b}$ を代入すると、

$$\begin{aligned} AH &= \frac{\left| y_0 + \frac{a}{b}x_0 + \frac{c}{b} \right|}{\sqrt{1 + \left(-\frac{a}{b}\right)^2}} \\ &= \frac{|ax_0 + by_0 + c|}{\sqrt{a^2 + b^2}} \end{aligned}$$



別解 5  $b \neq 0$  のとき、直線  $l: y = -\frac{a}{b}x - \frac{c}{b}$  この直線を  $y = mx + n$  とする。

直線上の点  $B(t, mt + n)$  をとり、点  $A(x_0, y_0)$  との距離の最小値を求める。

$$\begin{aligned} AB^2 &= (t - x_0)^2 + (mt + n - y_0)^2 \\ &= (1 + m^2)t^2 - 2(x_0 + my_0 - mn)t + x_0^2 + (n - y_0)^2 \\ &= (1 + m^2) \left\{ t - \frac{x_0 + my_0 - mn}{1 + m^2} \right\}^2 - \frac{(x_0 + my_0 - mn)^2}{1 + m^2} + \frac{(1 + m^2)(x_0^2 + (n - y_0)^2)}{1 + m^2} \\ &= (1 + m^2) \left\{ t - \frac{x_0 + my_0 - mn}{1 + m^2} \right\}^2 + \frac{(y_0 - mx_0 - n)^2}{1 + m^2} \end{aligned}$$

よって、 $AB$  の最小値  $d$  は、

$$d = \frac{|y_0 - mx_0 - n|}{\sqrt{1 + m^2}}$$

ここで、 $m = -\frac{a}{b}$  ,  $n = -\frac{c}{b}$  を代入すると、

$$\begin{aligned} d &= \frac{\left| y_0 + \frac{a}{b}x_0 + \frac{c}{b} \right|}{\sqrt{1 + \left(-\frac{a}{b}\right)^2}} \\ &= \frac{|ax_0 + by_0 + c|}{\sqrt{a^2 + b^2}} \end{aligned}$$